

「夢と感動のスポーツ推進協創プロジェクト」 平成26年度第2回推進会議の概要について

「夢と感動のスポーツ推進協創プロジェクト」の平成26年度第2回推進会議を平成27年3月19日（木）に開催しました。

第2回推進会議には、6名の委員のうち5名の方々にご出席いただくとともに、会議の進行を補助するファシリテーターとして国立大学法人三重大学教育学部教授の杉田 正明氏にご出席いただきました。

会議の概要は、以下のとおりです。

「夢と感動のスポーツ推進協創プロジェクト」委員及びファシリテーター

※敬称略、カッコ書は役職

＜委員＞

清水 栄嗣（NPO法人伊賀フューチャーズ
クラブ理事長）

辻 正敏（株式会社辻工務店取締役社長）

堀越 英範（三重県高等学校体育連盟
理事長
県立稲生高等学校 教諭）

前田 浩司（三重県障害者スポーツ協会
専門委員会 委員長）

松本 真紀（社会人クラブチーム 小俣クラブ
選手・バドミントン）

※北裏委員はご欠席

＜ファシリテーター＞

杉田 正明（国立大学法人三重大学教育学部
教授）



＜推進会議の進行概要＞

会議の進行概要は以下のとおり

開会 17:00
スポーツ推進局長あいさつ

事務局からの報告

- ・夢と感動のスポーツ推進協創プロジェクトについて
- ・平成26年度第1回推進会議の概要について
- ・平成27年度スポーツ推進関係予算について

プロジェクト推進についての意見交換

- ・競技力の向上について
- ・大規模大会の開催を契機とした地域の活性化について
- ・プロジェクトの今後の方向性について

閉会 18:30

（事務局からの報告）

冒頭、世古スポーツ推進局長から委員の皆さんに本日の会議の開催趣旨について説明しました。

また、平成26年度第1回推進会議の概要とスポーツ推進関係施策の平成27年度予算について、事務局から説明しました。

※スポーツ推進関係施策

- ・施策241 学校スポーツと地域スポーツの推進
- ・施策242 競技スポーツの推進

（プロジェクト推進についての意見交換）

続いて、杉田教授の進行により、プロジェクトの推進に向けて、次の3つのテーマに基づき意見交換を行いました。

○競技力の向上について

○大規模大会の開催を契機とした地域の活性化について

○プロジェクトの今後の方向性について

※委員からの主な意見

○競技力の向上について

(みえのスポーツを支える人づくり)

- 国体開催時だけの一過性の取組ではなく、継続性を持った取組にする必要がある。
- 子どもがスポーツに関わる機会をできるだけ多くし、能力の高い子どもを発掘・育成するシステムができれば良い。
- 運動部の強化活動を通じて、中体連・高体連の縦のつながりや競技団体間の横の連携を深め、取組を活性化できると良い。
- 子どもが現在取り組んでいる競技では芽が出なくても、他の競技では才能が開花する可能性もある。競技団体間で連携し、競技の転向を促進する取組も効果があるのではないか。

○大規模大会の開催を契機とした地域の活性化について

(スポーツによる地域の活性化)

- 県内で障がい者スポーツの全国規模の大会を実施するためには、施設面の課題が多く、ハード面の整備を進める必要がある。
- オリンピックのキャンプ地が地元に来て、一流のアスリートと触れ合う機会が持てれば、子どもがスポーツに親しむとともに、トップを目指すきっかけになる。
- 国体とインターハイの開催地をリンクさせることで、地域にスポーツを根付かせるきっかけにできれば良い。
- オリンピックのキャンプ地誘致は大変素晴らしいが、ロビー活動など多額の経費が掛

かるのではないか。

○プロジェクトの今後の方向性について

- スポーツの競技力を向上させる（トップを伸ばす）取組も大切だが、県民にスポーツに親しみ、理解を深めてもらう（底辺を拡大する）取組も重視するべきである。
- 行政の取組が地域のスポーツの現場にも届くように、しっかりと情報発信をする必要である。

など



次回の開催予定

6月中旬に平成27年度第1回推進会議を開催する予定です。